

日時：2023 年 11 月 16 日（木）16：30～18：00

会場：出島メッセ長崎 2 階 コンベンションホール 3（第 2 会場）

〒850-0058 長崎県長崎市尾上町 4 番 1 号

I. 開会

II. 理事長挨拶（大西宏明 理事長）

開会に先立ち、名誉会員の宮井潔先生（大阪大学：名誉教授 享年 94 歳：2023/9/1）、大谷英樹先生（元 北里大学 享年 89 歳：2023/10/26）、功労会員の平賀旗夫先生（菅野愛生会緑ヶ丘病院 享年 90 歳：2023/10/30）の逝去を悼み黙祷がなされた。

当法人定款第 21 条により大西宏明理事長が議長となり、定時社員総会の決議にあたり社員数 184 名のところ社員出席、議決権行使、委任を合わせて半数を超える（約 136 名）ため、定款第 24 条により臨時社員総会での決議は成立することが報告され、代表理事のほか、評議員の古川泰司先生を議事録署名人と定め議事を進めた。

III. 報告事項

1. 各種委員会活動報告（古川泰司 総務理事）

2023 年度各種委員会中間活動報告について、各委員会のまとめが資料として用意され、次項のとおり報告された。

1) 学術推進委員会（委員長：浅井さとみ、担当理事：矢富 裕）

①2023 年度 学術推進プロジェクト研究として 3 課題を採択。今回 15 課題の応募があった。採択には至らなかったが女性研究者からの応募が 4 課題みられた。地域性課題分類の中でのバランスもよく、さらに、医師、臨床検査技師、教員から偏りなく採択できていた。

②2022 年度採用 学術推進プロジェクト研究課題の中間報告 2 課題を受理

2) 編集委員会（委員長：吉田 博、担当理事：久谷直人）

①2022 年度発行の本学会機関誌（国内誌）に出版された論文を対象に優秀論文賞の審査を行い、1 名の受賞者候補者（次点候補者 2 名）を選考した。

②Laboratory Medicine International (LMI) の 2 巻 1 号（6 月）と 2 号（9 月）を発刊した。3 号は 12 月に発刊予定である。

③英文誌論文投稿システム ScholarOne Manuscripts の調整を行い稼働させた。現在英語論文は本システムを通してご投稿いただいている。なお、稼働前に投稿された英語論文については国内誌と同じ方式で審査を行っている。

④LMI 専用の WEB ページを作成中である。

⑤投稿論文の論文審査について検討を行った。

⑥日本臨床検査医学会誌のトピックスの立案を行った。

⑦第 70 回の学術集會に委員会企画として国際委員会と合同でシンポジウムの企画を提出した。

⑧ScholarOne Manuscripts の来年度契約および国内誌の J-STAGE 搭載について検討した。

3) 教育委員会（委員長 植木重治、担当理事 木村 聡）

①【共催】第 7 回医学生・研修医のための臨床検査ハンズオンセミナー（領域講習 2 単位）

主催：ワークライフバランス委員会、2023 年 9 月 10 日、講師：松本剛、ファシリテーター：中村文彦、上岡樹生、神田晃、山口宗一、金子誠、松下弘道、常川勝彦、オブザーバー：橋口照人

②【第 70 回日本臨床検査医学会学術集會 教育委員会企画】（領域講習各 1 単位）

11 月 18、19 日（予定）

RCPC1 司会：松本剛 出題：常川 勝彦、RCPC2 司会：中村文彦 出題：上岡樹生

Catch Up セミナー

セミナー1 司会：神田晃 演者：植木重治、セミナー2 司会：松下弘道 演者：志村浩己

セミナー3 司会：山口宗一 演者：涌井昌俊

③【e-learning】藤崎知園子：HIV 感染症の検査（登録中）

4) 保険診療委員会（委員長：松下一之、担当理事：古川泰司）

①「臨床検査点数委員会」から「保険診療委員会」への名称の変更。

②2024 年度の診療報酬改定に向けた活動計画。日本臨床検査専門医会との合同提案。医療技術評価報告書作成（今回から開始）。

③2024 年度の活動。日本臨床検査振興協議会（診療報酬改定小委員会）への参加（約 220 項目の要望があった）。

④2024 年度の医療技術評価報告書を提出。日本臨床検査専門医会（血小板凝集能、国際標準検査加算、末梢血液像・特殊染色加算、骨髄像・特殊染色加算、蛋白分画の 5 項目）、日本臨床検査医学会（20 項目）

⑤HL7-FHIR に必要な JLAC10 の検査室における導入について。JLAC11 への対応。

5) 学会賞委員会（委員長：飯沼由嗣、担当理事：井上克枝）

①2023 年 8 月 21 日（月）に Zoom 開催された学会賞選考委員会で受賞候補者を選出し理事会に報告、理事会にて受賞者が決定された。受賞者は下記の通りである。学術賞（藤原亨氏）、検査・技術賞（該当者無し）、若手研究者奨励賞（松尾英将氏）、優秀論文賞（石黒旭代氏）。

②募集要項について、応募者に不利益とならないように、よりわかりやすく修正することとした。

6) 標準化委員会（委員長：三井田孝、担当理事：日高 洋）

①ペプチド標準化の検討：浜松医科大学倫理委員会へ申請書を提出。

②Lp(a) のハーモナイゼーションおよび標準化の検討：日本臨床化学会および日本動脈硬化学会と連携。試薬メーカー 6 社が参加（3 社が国内で試薬を販売）し比較試験を実施。米国 CDC から Leiden 大学で IDMS 法により値付けしたパネル血清も同時測定し解析中。追加検討を計画中。

③コレステロール基準測定法の変更：Abell-Kendall 法から IDMS 法への移行を検討。

7) 精度管理委員会（委員長：小池由佳子、担当理事：堀田多恵子）

①CAP 国際臨床検査成績評価プログラム中間報告：25 施設減の 159 施設が参加した。参加中止施設の 83% が新型コロナウイルス関連検査の参加施設であり、主な参加中止理由は昨年同様、他団体（特に日本臨床検査技師会）のサーベイへの参加であった。

②第 1 回精度管理委員会（9 月 26 日に開催）報告：以前より問題視されている CAP サーベイ評価における日米間の乖離に対処するため、国内集計を認めてもらいたいという提言を JSLM 精度管理委員会として米国 CAP に行うことが議論され決定した。内容については今後検討していく予定である。

③臨床検査室グローバルニュース報告：季刊誌として年 4 回ペースで発行している。引き続き記事の確認、英文翻訳の校閲を行っていく予定である。

8) EBLM 委員会（委員長：佐藤正一、担当理事：田部陽子）

①第 3 回 EBLM 委員会を 3 月 22 日開催し、2023 年度検査医学会の委員会企画について検討を行った。テーマを「臨床検査と AI の融合」とし、3 演題の発表を行うこととした。

9) 倫理委員会（委員長：木村孝穂、担当理事：古川泰司）

①2023 年 5 月：教育機関からの「医療機関で検査の終了している残余検体（臓器、組織等）を教育目的で利用するために譲渡を受ける際の留意条項」に関する問い合わせに対応した。

②2023 年 6 月：一般社団法人日本臨床検査薬協会から企業での臨床検体の取扱いにおいて留意すべき事項に関する講演の依頼を受け委員長が対応した。

③第 70 回日本臨床検査医学会学術集会にて講演会「遺伝子検査・遺伝子診療における臨床検査の留意事項」を企画し開催した。

④遺伝子検査を終了した既存検体の精度管理、教育目的の利用について本委員会が 2021 年に改訂した見解への追記、改訂を委員会で検討中。

10) 利益相反委員会（委員長：山崎正晴、担当理事：古川泰司）

- ①企業から複数年度にわたる研究費等が供与されている場合の COI 自己申告書の記載方法について、および企業に所属する会員の COI 開示について、当学会の COI 細則の改訂を理事会に提案し、承認された。(2023 年 3 月 26 日)
- ②日本医学会より「日本医学会診療ガイドライン策定参加資格基準ガイダンス 2023」の一部改定案について利益相反委員会に意見を求める要望があり、委員会で審議し異論や意見はない旨、回答していただくように学会事務局にお願いした。(2023 年 4 月 17 日)
- ③2023 年 3 月 26 日の理事会審議において「役員などの COI 自己申告書」について各項目の申告限度額表記が一定していないとの指摘を受け、委員会で審議し、その改定案を取りまとめ、7 月 8 日開催の理事会に諮り承認された。

11) ガイドライン作成委員会（委員長：田中靖人、担当理事：吉田 博）

- ①昨年度のガイドライン作成委員会で決定されたガイドライン執筆者に依頼をかけ、現在執筆中である（一部回収済）。
- ②今年度は計 1 件の転載許諾依頼があり、内容を確認のうえ慎重に検討し許諾した。
- ③2023 年 2 月開催された日本医療機能評価機構による【Minds】第 25 回診療ガイドライン作成に関する意見交換会の動画サイトを委員会で共有した。
- ④2023 年 11 月 19 日第 2 回目のガイドライン作成委員会を開催予定。JSLM2024 臨床検査のガイドラインの執筆状況と今後の予定を確認する。

12) 検査項目コード委員会（委員長：内海 健、担当理事：松下一之）

- ①JLAC10 コードについて、臨床検査項目として、分析物コード、測定法コードの新規登録、変更申請削除を行った。
- ②「JLAC コード付番委員会」で新規体外診断薬を中心にして JLAC コードの付番を行っている。2023 年半年では 101 件の付番を行った。
- ③日本臨床検査医学会ホームページ上で情報を公開し随時更新している。
- ④検査項目コード委員会を 2023 年 8 月 25 日、日本臨床検査医学会事務局にて開催した。JLAC センターの開設、JLAC11 の公開について討議した。JLAC センターの設立を早期に図ること、JLAC11 の早期公開を図ることが了承された。

13) 広報委員会（委員長：木村 聡、担当理事：✕谷直人）

- ①4月に開催の日本医学会総会で「一般市民向けポスター」を作成。大会期間中、りんしょう犬さんによる臨床検査業務の紹介や全国から応募のあった検査室スタッフの写真を東京丸の内の地下通路で掲示した。
- ②パシフィコ横浜で開催のJACLaS EXPO 2023で臨床検査医学会のブースを設営。
 - ・11月の日本臨床検査医学会年次学術集会（長崎）のポスターを掲示。チラシ100枚を配布。
 - ・日本臨床検査医学会の概要や活動内容について紹介展示を行った（日本臨床検査専門医会と共同）
 - ・今後はSNSを通じた個別具体的な情報発信が求められ、今大会中に開催の委員会で討議予定。

14) 臨床検査室医療評価委員会（委員長：松下弘道、担当理事：堀田多恵子）

- ①2022年11～12月に、日本医学会連合門田班（臨床内科グループ）（以下門田班）からの依頼で行ったアンケート調査「COVID-19パンデミックと臨床検査体制」の報告書をまとめた。
- ②2023年度も門田班から依頼があり、アンケート調査「ポストパンデミックの臨床検査体制」を行う予定である。
- ③第70回学術集会で、昨年度のアンケート調査報告とISO 15189: 2022に関する講演を含めた委員会企画「臨床検査室における現在の課題」を開催する予定である。

15) 遺伝子委員会（委員長：松井啓隆、担当理事：松下一之）

- ①2023年度学術集会において、委員会企画「網羅的遺伝子解析による臨床検査の現在とこれから」を開催予定。がん遺伝子パネル検査や多遺伝子パネル検査の最新の情報を提供する。
- ②2023年度学術集会において、病理学会との共催シンポジウム「LDT・RUOと保険診療」に参画し、LDTの位置づけや課題を共有する予定。
- ③学会によるゲノム関連検査教育ワーキンググループにメンバーとして参画し、遺伝子検査領域の教育コンテンツ拡充のため、カリキュラム作成に関与した。
- ④「国内におけるLaboratory Development Test (LDT)評価ワーキンググループ」にメンバーとして参画し、国内におけるLDTの定義やあり方に関する意見交換を行った。
- ⑤その他、委員会委員より寄せられたセミナー等の案内を学会会員に周知した。

16) 国際委員会（委員長：下澤達雄、担当理事：井上克枝）

- ①2023年度国際学会奨励賞受賞候補者を選考し、松田将門、神戸歩の2氏を受賞者として推薦した。
- ②World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM) 2023 (Sep 5-8, 2023、ブラジル) における JSLM セッション The health check up system of Japan and the role of clinical pathologists にて、右田王介先生 (Use of genome and genetic information for preventive medicine in Japan)、村上正巳理事 (Dock and Preventive Medical Care: An overview of the health check up system in Japan)、下澤達雄国際委員会委員長 (Never let a good crisis go to waste. Winston Churchill, How we fight against NCD prevention in Japan) が講演を行った。
- ③第70回日本臨床検査医学会委員会企画として編集委員会と合同で「学会誌の英文版の発刊と学会国際活動」を企画した。
- ④10月20日韓国で開催の LMCE 2023 のアジアセッション The Supply Side of Laboratory Medicine に日本より古川理事をご推薦した。

17) 医療安全委員会（委員長：三枝 淳、担当理事：森兼啓太）

- ①第12回特別例会（2023年4月22日、第31回日本医学会総会2023東京）において、シンポジウム「タスクシフト/シェアと医療安全」を企画・実施した。演者：森兼啓太担当理事、井本寛子先生、益田泰蔵先生、座長：森兼啓太担当理事、三枝淳委員長
- ②第70回学術集会におけるシンポジウム（委員会企画）「医療情報セキュリティについて我々が知っておくべきこと」を企画した。2023年11月17日（金）午後実施予定である。演者：春名能通先生、吉岡亮平先生、藤川敏行先生、座長：森兼啓太担当理事、三枝淳委員長。
- ③第70回学術集会会期中に医療安全委員会会議を現地開催し、次年度以降の委員会企画について検討する。

18) 会則改定委員会（委員長：田部陽子、担当理事：谷直人）

- ①一般社団法人 日本臨床検査医学会 支部規約案を作成し、2023年度第2回理事会において承認されたため、各支部に本案に基づいた規約作成を依頼し、すべての支部から規約が提出された。

19) チーム医療委員会（委員長：小谷和彦、担当理事：田部陽子）

- ①パニック値の検討；パニック値の運用に関する提言（公開中）への照会対応。パニック値の全国調査の集計。
- ②チーム医療における臨床検査とその専門家の役割に関する検討。

20) 学術集会企画委員会（委員長：柳原克紀、担当理事：日高 洋）

- ①2023年第1回学術集会企画委員会会議を第70回日本臨床検査医学会学術集会会期中の11月17日（金）10：30～11：30に開催予定。

21) ワークライフバランス委員会（委員長：西川真子、担当理事：田部陽子）

- ①臨床検査専門医取得に関するサポートセンターで、9件の相談に対応した。（担当：千葉泰彦）
- ②第7回 ハンズオンセミナーをWeb開催した（9月10日、共催：近畿支部、教育委員会、日本臨床検査専門医会）。（担当：松本剛、眞鍋明広、鯉渕晴美、赤坂和美、原田健右、上養義典、大山陽子、増田亜希子、西川真子）

③第70回学術集会でシンポジウムを実施する。(テーマ：臨床検査医としてどう働き続けるか、担当：鯉渕晴美、千葉泰彦、尾崎敬、赤坂和美)。

22) 統合システムに基づく臨床検査のあり方委員会 (委員長：田部陽子、担当理事：田部陽子)

- ①第12回日本臨床検査医学会特別例会にて「シンポジウム1・ビッグデータとしての臨床検査情報」を開催。(2023年4月22日)
- ②標準企画 HL7 FHIR に関する日本医療情報学会 NeXEHRs 課題研究会(<https://nexehrs.jp/>)に湯地副委員長がオブザーバー参加。
- ③生活習慣病関連9臨床団体拡大会議に湯地副委員長がオブザーバー参加予定(10月19日)。
- ④2023年度第1回委員会を開催予定(11月17日)。
- ⑤第70回日本臨床検査医学会学術集会以て委員会企画「臨床検査と人工知能を利用した医療機器プログラム開発と医療機器認証」を開催予定(2023年11月18日)。

23) 新型コロナウイルスに関するアドホック委員会 (委員長：柳原克紀)

- ①COVID-19に対するこれまでの対応と、今後に向けた備えについての総括準備を行なっている。

24) 地域医療における臨床検査に関するアドホック委員会報告 (委員長：小谷和彦、担当理事：森兼啓太)

- ①臨床検査専門医の地理的分布や施設種、および臨床検査分野の地域医療貢献に関する検討。

25) ICD-11 委員会 (委員長：末岡栄三朗、担当理事：吉田 博)

- ①ICD11 和訳タスクフォース委員会の活動を引き継ぎつつ ICD-11 委員会と改称した。
- ②委員会ミーティングを2回実施した。(2022年8月8日、2022年11月18日)
- ③厚生労働省から依頼のあった ICD-11 改正内容および ICD-11 for MMS の追加・変更分の和訳の確認作業について回答を行った。
- ④細則に追記する委員会規定案を作成し、会則改定委員会に提出した。
- ⑤第72回厚生科学審議会感染症部会において、「サル痘」の名称を「エムボックス」に変更する方針が了承された。

26) 受験・更新資格審査委員会 (委員長：三宅一徳)

- ①2023年度臨床検査専門医、臨床検査管理医の受験希望者の受験資格について審査を行い、臨床検査専門医・管理医審議会に報告した。

27) 試験委員会 (委員長：山田俊幸)

- ①第3回日本専門医機構認定臨床検査専門医認定試験ならびに第40回日本臨床検査医学会臨床検査専門医認定試験を8月6日帝京大学で実施した。前者は8名受験し合格者8名、後者は8名受験し合格者は6名であった。

28) Subspecialty検討委員会 (委員長：吉田 博)

- ①2023年7月21日に日本専門医機構サブスペシヤルティ領域専門医制度についての説明・意見交換会、8月29日に第1回機構認定サブスペシヤルティ領域懇談会が開催され、委員長、大西理事長の他関係する常任理事等が出席した。
- ②機構の細則等の変更が検討され、制度運営にあたっては専門医機構、基本領域連絡協議会、サブスペシヤルティ領域専門医検討委員会3者の役割分担の明確化、専門医制度の全体像を定め、3つのカテゴリーに分類した制度設計を行う(カテゴリー1：機構が指定する領域、カテゴリー2：連絡協議会が推薦し機構が承認する領域、カテゴリー3：機構が定める認定規則により基本領域連絡協議会が認定する領域)。
- ③新しいサブスペシヤルティ専門医制度に関する細則の改定に関する質問・意見の受け付けがあり、基本領域連絡協議会による全体意見とともに、本学会として意見・要望書を提出した。

- ・専攻医数の少ない基本領域学会でも、他の基本領域学会が設定するサブスペシャリティ専門医制度に参画できる道を残していただくこと
- ・カテゴリー3（およびカテゴリー2）において他の学会と合同でサブスペシャリティ専門医の基本領域学会となることの是非は、規模・数などの画一的な外形基準でなく、そのサブスペシャリティー分野での本学会専門医の必要性に関する連絡協議会等の場での議論を通じてご判断いただくこと

29) 2022・2023年度臨床検査専門医認定試験実行委員会（委員長：古川泰司）

- ①第3回機構専門医試験、第40回臨床検査専門医認定試験は、帝京大学板橋キャンパスにて8月6日（日曜日）に1日で執り行われた。
- ②機構専門医受験者8名、学会専門医受験者8名の申込があった。
- ③両試験とも欠席者はなく、16名全員が受験した。
- ④委員会判定会議では、機構専門医受験8名中合格8名、学会専門医受験8名中合格6名と判定された。

30) 2022・2023年度臨床検査管理医認定試験実行委員会（委員長：山田俊幸）

- ①第15回臨床検査管理医講習・認定試験を、8月6日（日）に実施し、29名受験し29名が合格となった。

31) 日本専門医機構認定臨床検査専門医研修プログラム認定委員会（委員長：山田俊幸）

- ①2024年度基幹施設の研修プログラムの一次審査認定を行い、日本専門医機構に二次審査依頼をした。更新申請が2施設（5年目にあたる施設）、新規申請が2施設、変更申請が25施設であった。

32) 日本専門医機構認定臨床検査専門医更新資格審査委員会（委員長：山田俊幸）

- ①2023年1月1日付の臨床検査専門医更新の審査を行い94名を一次審査認定し、日本専門医機構に二次審査依頼をした。更新単位となる共通講習、領域講習の審査認定を行った。

2. 第71回学術集会報告（大阪 2024/11/28(木)～12/1（日）、日野雅之 会長）（大西宏明 理事長）

2024年11月28日（木）～12月1日（日）に、大阪国際会議場（グランキューブ大阪：大阪）において、日野雅之会長（大阪公立大）のもと開催予定であり、事務局長として中前美佳先生（大阪公立大）、運営事務局は（株）サンプルネットメディカルコンベンション事業部が担当することが報告されたうえ、日野雅之会長から一言挨拶があった。

3. 第72回学術集会報告（千葉 2025/8/28(木)～8/31（日）、大西宏明 会長）

2025年8月28日（木）～31日（日）、千葉県幕張メッセにおいて、大西宏明会長（杏林大）のもと開催予定であり、運営事務局は（株）サンプルネットメディカルコンベンションが担当し、現地と一部オンデマンド配信を予定していることが報告された。

ただ、開催時期が8月下旬であるため、演題募集、各賞の受賞候補者の募集、評議員、名誉会員、功労会員候補者推薦時期の繰り上げなど、前倒しで対応する必要があるため、理解、協力依頼がなされた。

4. 機構第3回・学会第40回臨床検査専門医認定試験について（東京：2023/8/6(日)）

（大西宏明 理事長、古川泰司 試験実行委員会 委員長）

2023年8月6日（日）、帝京大医学部板橋キャンパスで第3回日本専門医機構臨床検査専門医および第40回日本臨床検査医学会臨床検査専門医認定試験を実施した。機構専門医受験希望者8名、学会専門医受験希望者（初回受験6名、再試験受験2名）が受験し、機構専門医8名、学会専門医初回受験4名、科目受験者2名が合格、学会専門医初回受験2名はそれぞれ5科目、4科目不合格だったことが報告された。

5. 第15回臨床検査管理医講習・認定試験について（東京：2023/8/6(日)）（古川泰司 総務理事）

2023年8月6日（日）、帝京大学医学部板橋キャンパスにおいて、第15回臨床検査管理医講習・認定試験を実施した。当初30名の受験希望者があったが1名が受験辞退となり29名が受験し、29名が合格したことが報告された。

6. 支部規約について（会則改定委員会：田部陽子 委員長、久谷直人 担当理事）

2023 年度第 2 回理事会で示した支部雛形により、各 7 支部が支部規約を作成した。それを第 3 回理事会で確認し、6 支部の支部規約を当会ホームページに掲載したことが報告された。

7. 遺伝子関連検査認定医・専門医制度について（大西宏明 理事長、田部陽子 副理事長）

2023 年度第 2 回理事会で遺伝子関連検査認定医・専門医認定制度発足が承認された。認定対象は、臨床検査専門医（以降専門医）、臨床検査管理医（以降管理医）とし、専門医は遺伝子関連検査認定医・専門医を、管理医は遺伝子関連検査認定医を認定可能とする。2024 年 4 月から受験資格取得のため指定する講習受講を e-learning で受講開始して、2026 年に認定試験（専門医は e-test、管理医は現地試験）を実施予定であることが報告された。

8. 日本医学会連合門田班臨床内科グループ受託研究の継続について（大西宏明 理事長）

令和 5 年度日本医学会連合門田班臨床内科グループ受託研究の継続の受託依頼があり、臨床検査室医療評価委員会が引き続き担当する。研究「ポストパンデミックにおける臨床検査体制」のため、会員へアンケート調査依頼（11/6 発、12/25 期日）を実施していること、今回の学術集会で委員会企画「臨床検査室における現在の課題」で、令和 4 年度の本研究結果報告の予定であることが報告された。

9. その他

特になし。

IV. 審議事項

1. 2023 年度中間事業報告について（古川泰司 総務理事）

2023 年度中間事業報告がなされ、承認された。

名誉会員から、会員数の減少の原因と対策について質問があり、大西理事長から会費納入方式の変更等の要因もあるが、今後専門医数の増加を含め学会で会員増に向けて重点的に取り組む旨を述べた。

2. 2024 年度事業計画案について（古川泰司 総務理事）

2024 年度事業計画（案）の説明がなされ、承認された。

3. 2023 年度会計中間実績・2024 年度予算案について（大西宏明 理事長、久谷直人 会計理事）

2023 年度中間実績：2023/1/1～2023/6/30 までの実際の収入と支出の実績額である。

2024 年度予算案：収入、支出とも 2023 年度決算を参考に 2023 年度予算をほぼ踏襲しているが、下記を含む主な内容、変更点、また項目種類を簡素化したことが報告され、承認された。

一般会計（収入）：

- ・臨床検査のガイドライン JSLM2024 作製予定のため特別会計より 500 万円を一般に組み入れた。

一般会計（支出）：

- ・英文誌制作費：制作費のほか ScholarOne2 年目の年間利用料・サポート費用を立てた。
- ・専門医認定試験費用：例年の 200 万円に加えて試験用の PC 買換え購入費用 100 万円を加算した。
- ・新専門医制度費用：遺伝子関連検査認定医・専門医認定のための費用を加算した。
- ・ホームページ費用：例年の 40 万円に加えて英文版作成費用 30 万円を加算した。

特別会計：

- ・臨床検査のガイドライン JSLM2024 制作のため一般会計に 500 万円を振り替える。

アジア交流基金：

- ・当会が ASCPaLM 会計担当になるため、ASCPaLM 会費のほか諸経費を加算し関連費用とした。

4. 2024 年度からの名誉会員・功労会員・社員（評議員）の推薦について（大西宏明 理事長）

1) 名誉会員として理事会で承認された次の 2 名が提示され承認された

村上正巳先生、通山薫先生、

2) 功労会員として各支部から推薦され理事会で承認された次の 12 名が提示され承認された。

海渡健先生、加藤博之先生、佐藤麻子先生、長沢光章先生、濱田悦子先生、三井田孝先生、三宅一徳先生、木村秀樹先生、齋藤勝彦先生、山田鉄也先生、中町祐司先生、大久保久美子先生

3) 評議員（社員）として、各支部から推薦され理事会で承認された次の 18 名が提示され承認された。
富田泰史先生、青木智之先生、伊藤真以先生、小笠原洋治先生、奥橋佑基先生、越智小枝先生、紺野啓先生、清水直美先生、竹下享典先生、政木隆博先生、柳沢龍先生、湯地晃一郎先生、酒井康弘先生、上野智浩先生、西岡光昭先生、藤井敬子先生、山本英喜先生、大枝敏先生

5. 評議員の再任について（2024/01/01 付）（大西宏明 理事長）

2024 年 1 月 1 日付評議員再任予定者 27 名が提示された。再任手続きは、2023 年 12 月 26 日開催予定の評議員審査委員会での審査後となるが、評議員再任には社員総会の承認が必要のため、本日の臨時社員総会の承認を得ておきたい。ただし、再任の単位を満たさない場合は退任となることを前提のうえ、2024 年 1 月 1 日付の評議員再任予定者 27 名について承認された。

6. 第 73 回学術集会 会長の推薦について（田部陽子 副理事長）

2026 第 73 回学術集会の会長として、理事会で承認された吉田博先生（東京慈恵会医科大学）が提案され、承認された。

第 70 回学術集会会長の柳原克紀先生から、「未来を見据えた臨床検査」をメインテーマとして、現地開催で一部オンデマンド配信としたが、多くの会員に参加いただきたいと一言挨拶があった。

古川泰司総務理事より、2023 年度に係わる定時社員総会は、2024 年 3 月 30 日（土）に開催されることが報告された。

V. 閉会（大西宏明 理事長）

大西宏明理事長から閉会の挨拶があり、臨時社員総会を閉会した。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人がこれに記名押印する。

2023 年 12 月 6 日

一般社団法人日本臨床検査医学会臨時社員総会

議長 代表理事 大西宏明

議事録署名人 古川泰司

2023 年度 日本臨床検査医学会 総会だより

日時：2023 年 11 月 18 日（土）13：10～14：10

会場：出島メッセ長崎 2 階 コンベンションホール 1・2（第 1 会場）

〒850-0058 長崎県長崎市尾上町 4 番 1 号

出席：約 100 名

冒頭、大西宏明理事長より挨拶があり、議事を進行した。

臨時社員総会と同じ内容の報告がなされた。

古川泰司総務理事より、挨拶があり総会を閉会した。

総会終了後、国際学会奨励賞、学会賞・功労賞の授与、新功労会員、新名誉会員顕彰の表彰式が執り行われた。